

第18回 市民参加懇談会コアメンバー会議
－市民参加による政策検討会議－
議事録

1. 日 時：平成15年4月6日（火） 15:00～17:00
2. 場 所：中央合同庁舎第4号館 4階 共用第4特別会議室
3. 出席者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、岡本委員、
小川委員、加藤委員、吉川委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員
（原子力委員会）近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員
（内閣府）藤嶋参事官、後藤企画官、犬塚参事官補佐
4. 議 題：（1）「第7回市民参加懇談会」の開催結果概要について
（2）「市民参加懇談会 in 福島（仮称）」の開催について
（3）その他
5. 配布資料
資料市懇第18-1号 「第7回市民参加懇談会」の概要（速報）
資料市懇第18-2号 「市民参加懇談会 in 福島（仮称）」開催について（検討用ペーパー）
資料市懇第18-3号 第17回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

6. 審議事項

（1）「第7回市民参加懇談会」の開催結果概要について

○ 事務局より、資料市懇第18-1号について説明した。

（木元座長）

- ・ 第7回市民参加懇談会は、私自身としては、発言者の方皆さんが、ご意見をきちんとわきまえてお話しいただいたし、野次が飛ぶこともなかったし、成熟した議論ができたという感じがしている。ただ、第2部の方の会場からのご質問に対して、私どもが答えるという立場をとらないで、お聞きするということが基本だったので、不正確な情報に十分な対応ができないということでもどかしさを感じたのは事実である。これは今後の検討課題とするとして、市民参加懇談会の基本的な姿勢はきちんと踏襲していたことは評価できると思う。
- ・ 本日は、第7回市民参加懇談会にご出席いただいたコアメンバー、傍聴した近藤委員長と齋藤委員長代理にもご出席いただいている。また碧海委員から始めて申しわけないが、ご出席いただいた方にあいうえお順で、一言ずつご感想をいただければと思うが、よろしいか。

（碧海委員）

- ・ 司会の中村委員がとても大変だったと思うが、事前に予想したよりは、この「原子力長期計画についてご意見を述べていただく場として」というテーマに沿い、原子力長期計画を中心にして議論が進んだという意味で、うまくいったのではないかと感じる。

（井上委員）

- ・ コアメンバーとして初めて、参加してくださる方とかフロアとのいい関係が築けたと

というか、参加している私自身がとても興味深かった。だから、コアメンバーの位置というのは、ああ、こういう位置なんだなと実感し、参加させてもらってよかったと思う。

(岡本委員)

- ・今、木元座長が言われたことと、私も非常に似ていて、割と練れてきているという印象を持った。ただ、自主的にああいうところへ来てくださる方々だから、練れてくることはある程度当然かもしれないが、そういう何か練れていくプロセスみたいなものを、もう少し大きな規模にできないかということも思った。
- ・例えば、あの番組を少し編集して、どこかマイナーなテレビ局でもいいからオンエアする。メジャーだったらもっと良いが、小さな局でも今は例えば東京だと随分見ている方が多いから、あまり不自然にならない程度に編集して、たくさんの方がご覧くださると、現場で起こっている練れていくプロセスみたいなものが、1年、2年のうちに段々パブリックなものになっていくのではないかと印象を持った。

(木元座長)

- ・岡本委員が言われたように、確かに現地で行っていることを多くの人が見るチャンスがあれば、かなり成熟していくことになる。その意味で、放送しても良いかもしれない。

(岡本委員)

- ・あれは結論のない、1つのディスカッションである。通常のディスカッションというのは、結論を出そうとする。通常、テレビでも最後は何かどこか落とし所があるのが普通だが、あえてその落とし所のないままに、幾らか雑駁した印象のまま、ある程度定期的に流していくということができれば、練れているという感じが、だんだん多くの人の中に浸透していくのではないかと期待を持った。

(小川委員)

- ・井上委員が言われたように、意見をおっしゃる方とコアメンバーとの発言のバランスが、とてもよくとれていたと思う。ご意見を言われた方に、質問を中心に言わせていただいたが、吉岡委員が質問でなくて論評をされていたように見受けられ、ご意見に対してコアメンバーの意見を言っても良い場なのか考えた面があった。
- ・第2部の会場の方も、かなり意見としてバランスがとれて全体がまとまっていったので、全く発言されないで聞いていらっしゃる方も、かなり満足感が高かったのではないと思う。アンケートの結果が楽しみである。
- ・長計のプロセスについて現状を評価し、ご意見を分析し、新長計にご意見をどのように反映されたかリンクさせていくという作業は気の遠くなるような作業だと思うが、その作業のときにコアメンバーとして関わるのか、あるいは関わらないのかどうかというのが、個人的には近未来において、興味のあるところである。

(木元座長)

- ・今の最後の件については、委員会でもまた検討するが、事務処理的なことは全部こちらでやり、その後のことで、このご意見はこういう形でここに反映させているとか、そういう反映のかたちについてご意見を伺うかもしれない。これは、私自身の考えであるが、発言者の方のご意見に関して、ご意見を入れなかったのはかくかくしかじかの理由があるということも付記してはどうかと思っており、そういうことはきちんと踏ま

えて行いたい。そのあたりはご相談するか、ご報告するか、一緒に考えていただくかという形は、今後の問題だと思っている。

- ・司会進行の中村委員も、本当にお疲れさまだった。感謝している。中村委員の力量におんぶに抱っこという感じだった。感想をいただきたい。

(中村委員)

- ・そう言われると、自画自賛になってしまうが、私なりに市民参加懇談会のあり方というものをかなり模索してきて、今回の開催方法については、このコアメンバー会議でも大分意見を言わせていただいて、しかも司会進行を担当しましたので、私自身としてはかなり思惑どおりにさせていただいた。1つの市民参加懇談会のあり方というのを、一応、提示できたのではないのかと思っている。第1部のご意見を最初からまとめていただいた方たちももちろんだが、第2部で会場から挙手で発言なさった方も、皆さん非常に理性的に自分の立場、自分の考えというものを述べられたし、またほかの発言者に対するやりとりの部分も、皆さん大変理性的だったので、その点がやはり一番スムーズにいった最大のポイントだろうと思う。
- ・かなりしつこくコアメンバーの皆さんは議論をしに来るのではない旨を、失礼ながら申し上げたが、そのあたり、コアメンバーの質問も、当初の目的である発言者のご発言内容をより深く理解するためにというところに立脚して発言していただいたので、全体的によかったと思う。
- ・小川委員に異を唱えるわけではないが、吉岡委員も意見を言ったわけではないと思う。あの場での発言者に対する1つの評価というか、ポジションの確認というか、そういうことだったと思うので、意見を言われたわけではないというふうに受け取って進化した。
- ・それよりも、質問するということがはるかに難しく、はっきり申し上げると、今まではコアメンバーの方たちも質問の仕方が下手だったように思う。下手をすると、議論になってしまうような質問の仕方をしてきた。それが今回は、趣旨を的確に踏まえた上での質疑だったので、その点がスムーズだったし、発言者も自分の足りないところをより詳しく発言できるようになったし、多分、会場の皆さんも、発言者の意図というのがより深く伝わったのではないかとということで、バランスとして本当に良かった。催しとしてはそういうふうに総括して良いのではないかとと思う。この後、委員長の方から一言あるかもしれないが、懇談会が終わった後に少し委員長と立ち話をしたとき、私も同じように感じたことだったが、ご意見を聴けば聴くほど、結局、原子力政策であるとかエネルギー政策の中での原子力の位置づけというようなことが、実はまだまだ伝わっていないのだというお話だった。そういうことというのは、このご意見を聴くことと並行して、まだまだやり続けなければいけないし、その方法論というのでも大いに考えなければいけないのではないかとと思う。直接的には、第1部の方の発言の中に、事実誤認とか、誤った情報を鵜呑みにして自分の論理を組み立てていくとか、そういうことがかなり見られたので、ご意見はご意見として尊重するけれども、よって立つところが少し違っているというのは非常に残念な話なので、私たち市民参加懇談会というのでも、ご意見を聴く会だけれども、正しい情報の伝え方ということについてももう少し考えていかななくてはいけないのかなというのが、総合的な印象のポイントである。

(木元座長)

- ・ おっしゃることはすべて同感であり、以前にも市民参加懇談会で、「知りたい情報は届いていますか」というテーマのとき、こちらは伝えているつもりだが、その情報はこちら側が発信したとおりに伝わってなくて、受け手側として、知りたい情報というのはこういうもので、欲しいというもののズレがあるのは事実だと、私も正直に感じている。本当にありがとうございました。
- ・ 吉岡委員には、先日の市民参加懇談会のことも含めてお書きいただいているので、これをもとに吉岡委員からご発言いただこうと思う。お待たせした。

(吉岡委員)

- ・ 先日の市民参加懇談会が終わった後、木元座長との雑談で、木元座長が「またやりましょう」という非常に前向きな発言をされて、それをサポートする意味でこのペーパーを作ってきた。
- ・ ペーパーの内容の話の前に、先ほどの小川委員と中村委員のご発言に関連して言うと、私の趣旨は、発言者の発言内容を敷衍し補足するという趣旨であり、私の意見でもあるものの、そういう観点からお話したので、中村委員が2番目に話された大西氏の発言に対してかなり敷衍されていたのと基本的に同じ趣旨のつもりである。質問しながらやっていくと長くなる。彼らの心は、去年年末に福井でいろいろと議論してわかっているのだから、それを勝手に補足したということである。
- ・ ペーパーの内容だが、再度開催することを強くサポートするということである。能力面と効果面の両方で、それは実施可能であり有意義だと思う。
- ・ 年4～5回程度の懇談会を実施する能力は持っている。去年は3回だった。少なくとも、4回ぐらいは可能なのではないかと思う。5月に福島で2回目をやることになるが、あと2回ぐらいだとすると、地方と都市とで1回ずつ、仮に開催するならば、都市でのものを、もう1回長期計画についてご意見を伺う場に充てるということは、それほど無理ではないと思う。
- ・ 再度開催することで、効果もある程度期待できる。今回は、具体的建設的な提案やアイデアが割合出てきた。市民参加懇談会は参加者のご意見に対して、批判すべきでないと思うが、良い意見を言った人は名前を挙げて賞賛すると良いと思う。推進・反対の立場を別として、具体的な意見やおもしろいアイデアを言ってくれた方が、とりあえずペーパーでは4名おられたけれども、うまく誘導すれば現れるのだというふうに思った。
- ・ 今回の特に良かった点は、招聘した方々が予想以上にすばらしい方々であった点だと思う。9人選んだが、後半の第2部でも、招聘した9人が積極的にその意見を述べて、しかも1つのストーリーに沿って議論をし、脈絡をちゃんとつけて議論されたということで、その点が今回のとても重要なポイントだったと思うし、成功だと思っている。若干名、あまり具体的な意見を持っていない方もいたが、それは実は考えてみれば、選定の段階で意見募集をしたときに抽象的な意見を書いた人は、やはり第1部でも抽象的だったと思うので、もう1回やるとすれば、具体的な意見を書いた人を優先すれば良いと思う。特に、長い文章をつけてきた人は、さらにそれなりのものがあつたと思うので、そういう点で意見募集の際に工夫すれば、理性的な議論をする人を中心にうまい人選ができるだろうと確信を持った。

- ・一方、気持ちに訴える情緒的議論が少なくなかったが、やはり公共政策論だから、気持ちはわかるが理性的な議論をできる限りしてほしい。特に、第2部ではそうでない議論が少なからずあったので、それをより明確に奨励すればよいと思う。
- ・特に、お金を動かすとか公共利益に大きくかかわるものについては、意見を発表する人にもそれなりの検証責任が生ずるであろうということをペーパーに述べた。
- ・これがポイントだが、3月27日には総花的にあらゆるテーマを受け付けたが、もしもう1回やるとすれば、もっと狭めて深めるということが重要だと思うので、「過去の長期計画はなぜ失敗したか」ということに絞って1回やるなど、どうだろうか。これは当日、スミス氏が言われたことだと思うが、政策の評価を踏まえた長期計画ということならばこういう観点があり得るし、私自身もこれを言ってきたので、1つ選ぶとすればこれであろうと思う。幾つかテーマを選んでその1つにするのも、これからの議論で可能だと思う。
- ・最後に、会社に例えて言うと、社長、副社長が来てくださるとするのは、会の性格を大きく引き締めることだと思うので、お休みのところ大変だったが、近藤委員長と齋藤委員長代理には敬意を表したい。前田委員にも敬意を表したい。できれば、もし再度開催するときには、無理は言わないが、原子力委員が私たちから報告を受けるのではなくて、できるだけその場にいらしていただいた方が、参加者にとってもありがたいだろうと思う。

(木元座長)

- ・後段で今日論議するが、次回の福島開催は、テーマは長計ということではなく考えているので、先ほど言われた東京でもう1回開催するというを確認しておきたい。
- ・また、「過去の長期計画はなぜ失敗したか」という吉岡委員のアイデアに対しては、失敗したかしないかわからない、などという意見も出るかもしれないので、また開催するときには、その論議をさせていただければと思う。
- ・今、最後に、本当によく言っていたと思うし、私もうれしかったが、原子力委員が委員長を始め委員長代理、それから町委員は出張中だったが、前田委員も参加していただいて、大変うれしかった。
- ・それでは、委員長からも、ご感想とご批評をいただければ。

(近藤原子力委員長)

- ・中村委員と木元座長の名司会で、大変スムーズに議論が進行したこと、心から御礼を申し上げる。私は青森のときに、パネリストの席に座らせていただいて、指名を受けて発言するという立場だったが、あのときは専門家同士の対論で、あまりかみ合わなかったもので、皆さんが今回は、素直に話し合うという立場で臨んでいて、よくまとまっていたというか、ディスカッションができたというのが感想である。それは1つには、もちろん発表する方の選定が大変よかった。それからもう一つは、申し上げるまでもなく、コアメンバーの方がご質問され、大事なポイントを効果的に引き出していただいたこと。そのため時間のたつのを忘れるぐらい議論が大変よくかみ合い、お互いの琴線に触れる発言がなされたのだと思う。
- ・各論をひとつふたつ。第1は、第7回市民参加懇談会のご案内を差し上げるときに、もう少し工夫ができないかと思い、幾つか提案させていただいた。長計とか原子力政策は、法律によって所掌範囲が定まっている。にもかかわらず、原子力委員会がエネ

ルギー需給見通しを全部つくってしまえるかのごときご認識で、そうしないのはけしからんと発言される。これは、あってなかなか我々として扱いかねるところがある。このような言い方をするのは大変失礼なので、どの意見もすばらしい意見に違はなく、それに適確に対応できない方が悪いに決まっているが、原子力委員会の所掌範囲などを共通理解として持てるような仕組みでご案内を用意したら効果的に議論が進むのではないか。書いても読んでくれないということもあるのかもしれないが、それが少なくともいつもそれを参照できるような状態にして、議論が進行されると非常によいのではないかと思ったからである。これは、採用されなかったが、今後ご検討をお願いしたい。

- ・ 一番なるほどと思ったにもかかわらず、どうしたものかなと悩んでいるのは、過去の長計を総括して今後の長計を考えるというご提案である。今いろいろな議論をしており、そもそも仮に「長計」という言葉を使っているが、私どもが内閣府へ移ったとか、それから主要な政府研究機関が統合して1つの独立行政法人となり、政府は中期目標を示すことになる、というように行政の構造が変わってきている中で、果たして「長計」すなわち「長期計画」という言葉を引き続き使うべきなのかということから悩んでいる。「エネルギー基本計画」という言葉があるから、「原子力基本計画」かとも思ったりしている。
- ・ 安全問題については、土地勘がありすぎて、すぐ何か言いたくなるので、何か言われても静かにするようにしていたが、ただ、安全問題を取り上げた方にとって、ある種の効果感というか、参加感というのがどうなのかという思いは残った。何か工夫をして差し上げられることはできないかと。つまり、そういう方は趣旨を踏まえていないということで排除するのではなく、せっかく来て何か言われた方が、休日をつぶしたご利益を感じられるようなお返しを、我々としても考えても良いのではないかということで、どうしたらいいかなということについて、悩んだ。以上が感想である。

(木元座長)

- ・ ご出席なさった方はわかると思うが、高校の体育の先生が安全問題を挙げられたのに対して、すごくいい答えがある。つまり、安全をどう考えるかというようなところから、体育の場合なら生徒の安全をどう考えるか、そういうことでやりとりできる。とても重要なことなので、次回以降、そんなやりとりができればと考えている。

(齋藤原子力委員長代理)

- ・ 大体皆様のご意見で出尽くしているかと思うが、私は市民懇に参加させていただいたのは多分2回目で、四谷の主婦会館で開催したときは、オブザーバーとして聞かせていただいた。今回は、先程来ご意見が出ているように、意見を言われた方とコアメンバーの間でうまいやりとりが、スムーズにいったのではないかと思う。それから、会場で聞かれていた方も、ある種冷静に議論に参加されていたという点で、非常に成功であったのではないかと思う。大きな功績としては、進行役の中村委員のお力も大であると思う。
- ・ 参加された方のうち、よくわかっている人が数人と、それから全くの初めてと見受けられる方、そのコンビネーションも良かったのだろうと思う。
- ・ あそこで議論されたものが、会場の110人に限られてしまっている、それがもったいない。それに対して、先ほど岡本委員が言われたように、ケーブルテレビ等を用い、

もっと広く、我々の立場としてもわかっていただきたい。これをいかにやるかというのが、大事だと思う。

- ・ そのとき気になるのは、発言された一部の方々のデータベースが全然違って、国の言うことも信用しませんというときに、何らかやはり実際はこうだという客観的なことを示さないと、ケーブルテレビ等に出たときに変な誤解を生まないかということが懸念される。要するに、今回のような結果をもっと広く、正しく一般の人にわかっていただく努力というのが大事ではないかと、突き詰めればそこになると思う。

(木元座長)

- ・ これからの課題になると思う。つまり、正しいというのは「正確な情報」という言い方をさせていただければ、正確な情報をその場を利用してどう伝えるかということだと思う。
- ・ 町委員は、ご出席にならなかったが、嬉しいことに、記録ビデオをご覧になっている音が、隣の私の部屋に聞こえてきた。ご感想をお願いしたい。

(町原子力委員)

- ・ 今の齋藤委員長代理、あるいは中村委員も言っていたと思うが、まさに事実誤認というのが確かにかなりあって、例えば、原発は地球温暖化に全く貢献しない、プラスになっていないのだとおっしゃる方もいた。核燃料をつくるときにエネルギーが要るとか、いろいろそういう理由づけもされていたが、全くこの辺は情報が伝わっていないと感じた。正確な情報を伝えることを、間違いなくどこかの場でやらないと、いつまでも誤解がそのまま、その方のグループの中でいろいろ議論しているということなら、誤解がどんどん広がることになる。
- ・ それから、原発の近くで遺伝子の異常が見られたと言われた方もおられたが、これは全く信じられない話だが、事実確認し、その上に立った議論でなければと思う。
- ・ ただ、スミス氏の提案は、非常に印象深かった。今、委員長が総括は難しいと言っていたが、総括というのは必要ではないかと思う。つまり、計画したことがその5年後にどうなったかということは、実はIAEAなどでもそういうことをやっているわけだが、総括という言葉はあまり好きでないものの、レビューを試みるのは必要だろう。
- ・ 木元座長も質問していたが、委員を選ぶときに推進派と反対派から公募して、双方から選んだ人が中立の人の委員を決めるという提案について、では公募したときにたくさん来たら、その中からどう選ぶかと言ったら、それをやるまでにまた委員会をつくらと言われた。その委員会の委員をまたどう選ぶかとか、堂々めぐりになると思うが、今、原子力委員会としては、やはりこういう意見をどううまく反映させていくかというのは、大変な重い課題というか、難しい課題である。これから議論しなければいけないだろう。

(木元座長)

- ・ スミス氏とは、会が終わった後で、コアメンバーがそれぞれ意見交換し合ったり、名刺交換し合ったりした。碧海委員も井上委員も話し合ったと思う。その中身を伺えるか。

(碧海委員)

- ・ 今、町原子力委員が言われたとおり、今回もそうだが、意見募集という形でやれば反

対意見が9割を占めるというのは当然だと思うので、スミス氏には、9割は反対しか来ないということでは、委員の選定というのは難しいのではないかと申し上げ、それについて質問した。それに対しスミス氏は、そう言われれば確かにそうだ、恐らく、原子力政策に限った委員会にしてしまうとそういうことになるから、もっと幅広いテーマの政策の委員会の形にして、その中に原子力とかエネルギーとかというものを含める形の方が良いということと言われた。先ほど委員長が、原子力委員会としては原子力政策が所掌範囲だというように言われたが、原子力に限るというのは、自分自身としては非常にやりにくいなといつも思っているの、その辺のところをこちらが言ったらスミス氏が非常に素直に応じてくださり、意見を言われていた。

(井上委員)

- ・最後に廊下で話をしていたときに、スミス氏は各論を議論したことを悔やんでおられたように思う。スミス氏の論点とか論旨というのは、総論レベルで政策決定をしていくプロセスの積み上げレベルの話を、ずっと本筋として、テーマとして持っておられるように思う。総論的な、いわゆる政策をつくっていくときのステップアップのレベルをこういう順序でやっていくべきものが、どこかでそれが切れていたとか、三段跳びに来ていたとか結論が出なかったとか、そういうものに対して非常に思いが強く、各論のレベルで議論はあまりしたくないというようなニュアンスでおっしゃっていた。
- ・各論というのは政策が全部積み上がったから、次に語っていくものだろうと思うので、では本当に政策などというものにかかわったことのない一般市民と一緒にになって議論するときは、すべての方がスミス氏のレベルではないと思う。もし、一般市民も含めようとするならば、逆に市民の側でかなりそういうトレーニングが必要で、市民の状況というのはまだトレーニングが要る状況だと思うので、スミス氏の思いには至らないかもしれないが、私たちはそういう提案を受けたときに、ああ、トレーニングが要るのだなというふうに受け取りましたと申し上げた。そうしたら、「ああ、その部分のずれはあるわよね」と言われ、私たちは、そういう地域とか地方、自分たちの住んでいるところでしていく生涯学習等のレベルでは、国に文句を言うのでなく、国の政策で同じテーブルに着こうと思ったら、そういうことに関してきちんと論議ができるようなトレーニングをしなければいけない、というような合意ができたと思っている。

(近藤原子力委員長)

- ・私も、話し合いをしたが、最後は委員会の責任、私どもが国会から付託された責任を持ってすることなので、ご意見としては十分承るが、最後は私どもの責任で処理させていただきますと申し上げ、それはそうだという反応を得たという認識だ。

(木元座長)

- ・また今日いただいたご意見は反映させて、次の市民懇に活かしたいと思う。
- ・意見募集の結果、475通いただいた。それから、市民懇でまたご意見が出た。ご発言のご希望をいただいた方28名中、9名をバランスよく選ばせていただくとともによくなった。そういうものを踏まえて、取りまとめ方法はこちらにお任せいただけるか、それとも、取りまとめについてのご意見は、何かあるか。お任せいただいた場合には、ある程度のものをつくった上でまたご検討いただければと思うし、これは原子

力委員会の定例会議に報告するので、その形まではこちらでつくってよろしいか。

- ・ご意見がなければ、そうさせていただく。ありがとうございます。

(2) 「市民参加懇談会 in 福島 (仮称)」の開催について

(木元座長)

- ・議題2は、第7回市民参加懇談会の検討以前から懸案だったものである。資料市懇第18-2号というのをお手元に出していただければと思う。仮称だが「市民参加懇談会 in 福島」とさせていただいている。
- ・福島開催の場合、浜通りで開催するという見解だった。ということは、原子力発電所が存在している地域である。そこで、大テーマの候補を挙げた。「原子力とともに暮らす」、「今、あなたにとって原子力発電とは」、「原子力と浜通り 今、原子力をどう考えるか」、「21世紀の原子力政策をともに考える」。この中から具体的に何をやるかということを考える。
- ・検討する順番を逆にさせていただくとありがたい。つまり、まず富岡町で仮に開催するをしたい。それは、富岡町の方からかなりご熱心に、町長をはじめ、うちの方でやっていただけないかというような話もあったし、こちらからアプローチした段階でも、是非にとのことであったからである。
- ・会場は、以前お話ししたかもしれないが、この富岡町というところに「パレス華の樹」という結婚式場があり、近い日程で週末にあいているのが5月22日の土曜日であると分かった。
- ・この会場で開催するとして、では会はどう進めたらいいかということになるが、開催に対する地元のご意見をまず伺いたいと考え、事務局の方からも、富岡町の婦人会前会長の林さんという方からご意見を伺わせていただいた。すると「考えたいテーマ」は、地元としては「今後 原子力はどうなるのか」とのこと、一緒に暮らしているため、かなり具体的であることが分かる。将来原子力発電所がなくなってしまったら、自分たちはどう生きるかということが背後にあるのだと思う。それから、エネルギー供給の中で、今後、日本では原子力の存在はどうなっていくのだろうか。このままいくのか、ふえるのか、減るのか、なくなってしまうのか。それから、今現実に目先の問題として、やはりこの原子力発電は存在してもらわなければならない、そのときに、「信頼を回復するために何ができるか」。これは、当事者である東京電力もありますけれども、市民としても何ができるかということを問われているのではないと思う。
- ・会場の関係から、参加の人数は200名程度と考えている。
- ・ご存じのように、この地区には福島第一と福島第二という2つの原子力発電所がある。その2つとも、双葉郡というエリアにある。双葉郡の中には8カ町村ある。楢葉町、富岡町、双葉町、大熊町が原子力発電所の立地町、それから広野町、川内村、浪江町、葛尾村である。この8カ町村から200名ぐらい来ていただこうと考えている。
- ・パネリストについては、ご協力いただいた林さんの団体の方、もしくは紹介していただくか、あるいはこれまでのように有識者に——これは地元紙を含めてだが——直接お願いするか、また、小テーマに応じて、ふさわしい方にお願いするか。
- ・林会長がおっしゃるのは、パネリスト候補は青年、婦人、商工会、農業等の団体が双葉郡単位で集まっているので、各個に相談するのがよいのではないかとのご意見で

ある。そうすると、地元のいわゆる市民の方たちで全部固めることになる。

- ・ 会の進め方については、林さんのご意見は、「まずテーマについて話をいただいた上で、その話を前提においてフロアと対話をしてはどうか」。これは、市民懇の第1部、第2部を頭に置いていらっしゃると思う。「いきなり「どうですか？」とフロアに聴いても、フロアからの発言者が続出することは考えられない」「フロアと自由にやり取りすることは割と難しい」。
- ・ そこで、事務局としては、「まずコアメンバーから、エネルギーの中での原子力発電についてどういう考えを持っているのか」、つまりどういう考えを持ったお立場で、このコアメンバーとして市民参加懇談会に出席なさっているのか、それから「またはエネルギーについてどういう考えを持っているかのご意見を話していただく。（説明ではなく、それぞれの先生の特長を出して、短くご意見を話していただく）」、「短く」がポイントだが、次に、地元側のメンバー「各層の市民（5人位：青年、婦人、商工会、農業等）からご意見を伺う。その後、それら各層の市民（5人位）とのキャッチボール」をしてほしいと考えている。
- ・ 私どもは広聴、広く聴くということを建前にやっているが、地元の意見としては話し合いをしたいというところもあり、これは「ご意見を聴く会」でもなくて、意見交換という感じになるかもしれない。そういうキャッチボールを行うと、盛り上がる話題があるだろう。その盛り上がった「話題に関してフロアにいる人に意見を聴く」というのはどうだろうか。これは、林さんのご意見だが、「フロアに聴くのは2～3回程度で良いのではないか」、そうすると、「いろいろなことを考えながら聴くことができ、いろいろなことがわかったということになると思う」。
- ・ これを頭において議論させていただこうと思うが、まずテーマ候補。大テーマというか、掲げる看板のテーマは何がよいかということでご意見いただければと思う。福島でやる場合には、私が前回、前々回も申し上げた「原子力と共生する」というのが底辺にある。

（小川委員）

- ・ 地元の団体と共催することにはなったのか。

（木元座長）

- ・ 「共催」という言葉は、前々回に私が共催と申し上げたときに、共催でない方が良い、「協力」としようということになった。だから、林さんにも協力という形でご了解いただいている。

（小川委員）

- ・ そうすると、「今、あなたにとって原子力発電とは」が良いと思う。というのは、主催が市民参加懇談会ということだから、「原子力とともに暮らす」とすると、地元の皆様の視点が強過ぎると思うので。

（木元座長）

- ・ 「あなた」は、我々も含めて「あなた」か、地元に対しての「あなた」か。

（小川委員）

- ・ 基本的には地元で聴く、広聴の立場を出すテーマとしては、後者だと思う。

（木元座長）

- ・ おっしゃる意味は分かるが、「あなたにとって原子力発電とは」の方が、狭くなるよ

うな気がする。もし地元のご意見を聴いて相互に意見交換するということがあるのであれば、「原子力とともに暮らす」とすれば、大消費地も原子力発電と一緒に暮らしている、というように意味が広がる。日本は広い視野で見た場合には、一緒に暮らしている国だ、というような考えでいけば、漠とした方が話はしやすい。

(新井委員)

- ・ 1番の「原子力とともに暮らす」が、やはり無難ではないか。「あなたにとって原子力発電とは」というと、少し詰問的になり過ぎるだろうし、「原子力と浜通り」というのは、リアリティーがあり過ぎるだろう。「21世紀の原子力政策をともに考える」となると、大き過ぎて私もわからないという感じになるから、雰囲気であれば、1番にしておくのが無難であって、広がりもあり、良いと思う。

(小川委員)

- ・ 消費地も原子力と一緒に暮らしているという座長のご意見をお伺いし、異論はない。

(木元座長)

- ・ 本当のことを言えば、大消費地が今問題である。岡本委員の意見を聞きたいが、JCOの事故の調査などのときに、意外にサイトの現地の方が、消費地よりも原子力に関する勉強をしているし、知識がおありになると感じなかったか。

(岡本委員)

- ・ それは微妙で、東海村の場合には、高学歴者の比率が多い。だから、知識が多いということは、教育年数が多いということと相関している。
- ・ 良い意味で慣れが生じていて、通常の学歴の方でも態度の構造が安定しているので、ああいう大きな一過性の事故の直後であるにもかかわらず、そんなにネガティブにシフトしていなかった。一番ネガティブにシフトがあったのは、通常の都市であった。あの調査は、サンプルを3カ所に分けていて、東海村、那須町といった立地地点と、それから政令指定都市に分けて、ウエートを変えて計算するというちょっと特殊な手法を使った。一番影響が大きかったのは都市部だった。

(木元座長)

- ・ そうというような意味からすれば、おしなべて、私の感触もそうだが、碧海委員もいつもおっしゃっていると思うが、現地のいわゆるサイトの方が、非常によく勉強しているらしてわかっているということ。

(岡本委員)

- ・ 勉強することは、多分必要ではなくて、心理的に慣れることが必要。

(木元座長)

- ・ いろいろな情報も来ていて、慣れる。
- ・ 今のこの大テーマ候補とすれば、1番はどうだろうか。

(岡本委員)

- ・ わからない。僕は、福島状況をよく知らない。
- ・ ただ、この3番目の「原子力と浜通り」にすると、何かそこに恩恵的な論点が落ちているということに話題が集中し過ぎる懸念は、ちょっとあるだろう。

(木元座長)

- ・ すると、新井さんのご意見と同じような感じか。
- ・ 加藤委員はいかがか。

(加藤委員)

- ・ただ「原子力とともに暮らす」というと、見方によっては非常に立場が明瞭で、まさに原子力政策を進めていくという立場から見ているんだなと、そう見えるだろう。

(木元座長)

- ・ともに暮らしていて、嫌だなと思っている人もいる。

(加藤委員)

- ・しかし、その「ともに暮らす」というのは事実かもしれないが、「ともに暮らす」というテーマのつけ方自体は、やはり見方によっては、ああ、もう一緒に暮らすという、そっちから見るのだなと、それはそういう見方をする人がいても仕方がないだろう。だからだめだということではなく、そこはそうっておかないといけないのではないかと思う。

(木元座長)

- ・前々回か、小沢委員がこのテーマをご提案になったときか何かに言われたことだが、福島の場合、原子力発電所がそこにもうあるということを確認した上で、良い、悪いという論議ができるのではないかという話があったと記憶している。だから、今、加藤委員が言われたことも理解できるので、それも踏まえながら討議を重ねたいと思う。

(加藤委員)

- ・どちらかという、「ともに暮らす」というと事実であると同時に、それを前提にしたニュアンスになるから、どうつき合うかというニュアンスで言った方が、よりニュートラルだという気がする。

(木元座長)

- ・「原子力とどうつき合うか」。良いアイデアが出た。

(加藤委員)

- ・それが良い言葉かどうかはよくわからないが、ニュアンスとして。

(木元座長)

- ・すると、先ほど言われた意味で使うとすれば、大テーマを「原子力とどうつき合うか」的に言う方が良いということでもよろしいか。

(加藤委員)

- ・どうだろうか。

(小川委員)

- ・「つき合うか」というのも良いが、「向き合うか」はいかがか。

(中村委員)

- ・言葉の話は置いておいて、やはりコンセプトの話で、僕も加藤委員のご意見に賛成で、座長が言われるように、その消費者、消費地というニュアンスも含んでというのは、僕らの今の考えであって、これを突きつけられた地元の浜通りの方たちは、そういうふうには受け取らないと思う。やはり、加藤委員が言われたようなニュアンスの方を前提に彼らに伝わっていくので、そのまま受けとめて参加できる人はいいけれども、そこで反発してしまうということも当然考えられる。消費地、消費者はともに暮らしているのではなく、原子力のおかげで暮らしているだけの話なので、「ともに暮らす」というニュアンスが消費地も含んでいるよといったメッセージは、多分このタイトルでは伝わらないと思う。

(木元座長)

- ・別紙の「考えたいテーマ」のところの上に、林さんからいただいた「今後 原子力はどうなるか」というのがある。その方が届くし、ストレートという感じもあるが、そういうものをメインに持ってくることはどうか。

(中村委員)

- ・地元から聴取できたご意見というのも考慮して、テーマとやり方を考えなければいけないところだが、「これから原子力はどうなるか」というテーマで、市民参加懇談会が話を聞きに行けるか疑問に思う。彼らが話したいというのは、彼らの中で話したいのであって、僕らに言いたいことではないような気がする。考えたいテーマとして提示された中で、言葉の表現の仕方は若干これから修正するとしても、やはりエネルギー供給の中での原子力の存在というあたりが一番、消費地、消費者、あるいは市民懇としても、何か同じテーブルで考えられる、ご意見を聞けるテーマになるかなと思う。「ともに暮らす」はやはりすごく誤解を招くおそれがあり、我々のニュアンスがこのタイトルを見ても伝わらないのではないか。
- ・結論だけ言うと、1枚目の大テーマ案の3つ目で、「原子力と浜通り」というのはカットして、「今、原子力をどう考えるか」は生きると思っている。

(吉岡委員)

- ・いろいろな意見が出たが、林さんのメモを見て、一番生々しいのは、「今後、原子力はどうなるのか」である。本当にどうなるかわからない先行きの不透明感に対する不安がかなり強いのであろう。本当に心配なことを直接議論するという点で生々しいのだが、その下にある「エネルギー供給の中での原子力の存在」は括弧に入れてもいいと思う。それと基本的には同じことを議論するのだと思う。
- ・今後どうなるのかということが重要だ。今どうなのか、これからどうなるのかということ、自分たちの意思だけでは決まらない、もっと大きな流れの中でどうなるのかということ客観的にとらえて、それと自分たちがどうかかわるかということの問題にするならば、「どうつき合うか」というのもそれと同じようなニュアンスではないのだろうか。「あなたにとって」というよりも、これは相手のある話であって、相手とどうやってうまくつき合うかということが大事だということを考えれば、加藤委員の意見というのは捨てがたい。
- ・それと、あえて入れるとするならば、「エネルギー供給の中での原子力の存在」、この2つぐらいだと思う。

(木元座長)

- ・「つき合うか」というのは、私もなかなかいいかなと思っているが、「つき合うか」と言ったときに、いや、もう絶交しますよとか、仲良くしますよということも出てくるだろうし、お話は今言われたような中で、例えば2枚目の「エネルギー供給の中での原子力の存在」の中に、それぞれが言葉として出てくるのは可能なことである。「つき合うか」よりもっと広がっているわけだから。
- ・ただ、そうなってくると、こっちの方が大テーマとなり得るかなという感じはあるが。

(岡本委員)

- ・どういうふうに短い言葉にすればよいかかわからないけれども、仮に自分の親戚が別の町にいて、その町が、これから原子力発電所を迎えるかどうかということがイシュー

一になっているとする、そういう親戚がいたとしたら、あなたは何を伝えますかというのを本当は聞きたいのではないかと思う。つまり、立地地点でやるのだから、やはり立地地点から見た景色というものが出てこない、東京と同じ話が出てきたのではおもしろくない。

- ・ 先日の第7回市民参加懇談会で、喫茶店経営者の方が、わざわざ私は賛成だと言いたいがために敦賀から来られたが、あれは大変な情熱だと思った。どういう事情でそんな強い動機づけをお持ちになったのかと思ったりしたのだが、それでも、あの方なりの市井から見た原子力のある町の風景というのは一瞬見えた。
- ・ そうすると、我々が今後、できればもう少し立地も進めたいのだろうし、そうしたときに、地元の人は何を見るのかというところを本当は知りたい。だから、これで言うと私なんかむしろ別紙の、「信頼を回復するために何ができるか」といった、できれば、これから立地するかもしれないというところの住民に対して、あなたはどっちを薦めますか、なぜですかということ聞いてみたいなのというのがすごく率直なところである。
- ・ つまり、福島は原子力発電所が無くなったりはしないわけだけれども、新たにこれからどうしようかといったところに、あなたは何を伝えるか。しっかりお金をもらえよというのか、町が栄えるよというのか、あるいは地価が影響して大変だよと言うか、何を言うのかわからないけれどもそういうときにどこを見るのかというのを知りたい。

(木元座長)

- ・ そうすると、タイトルとして文字であらわすとどうなるか。

(岡本委員)

- ・ 難しい。

(木元座長)

- ・ 難しい。中村委員が言われた「エネルギー供給の中で原子力の存在」ならば、そういうものを全部含まれるようなことにはならないだろうか。

(岡本委員)

- ・ あるいは、あなたの町にとって結局よかったか、よくなかったか。仮にやり直せるとしたらどっちがいいか、という感じか。

(新井委員)

- ・ これは全く個人的な意見だが、この福島に参加したいという私の気持ちは、原子力とともに暮らすことの喜びとか悲しみとか不安とかいろいろあると思うので、受ける言葉の多様性があるので、これが非常にいいと思っている。例えば、「エネルギー供給の中での原子力の存在」なんて言われて、これで全うに議論ができるとは到底思えない。これは無理じゃないだろうか。だから、そういった、福島で普通に暮らす人たちの生活の中の感覚みたいな話を、私自身は最大級に聞きたいと思う。

(碧海委員)

- ・ 私は基本的には新井委員のご意見に賛成だが、ただ、「原子力とともに暮らす」というタイトルだと、多少、先ほど加藤委員が言われたようなものを感じてしまう。これは確かに私もそう思うので、もっとさらに漠然とさせて、例えば「原子力と暮らし」として、「過去、現在、未来」とかというのを下につけるとかそういうのはいかがか。
- ・ サブタイトルを入れておけば、その地域の人たちがいろいろな立場の人であっても何

か言えそうな気がする。

(岡本委員)

・例えば、「原子力のある町の喜び・苦しみ」ではストレート過ぎるか。

(中村委員)

・ある町とは限らない。隣の町もあるのだから。

(木元座長)

・言葉として出すときついという気がするが、どうだろう。

(岡本委員)

・でも、きつく出してみたらどうだろうが。やはり僕も新井委員と同じ意見で、その町から見たその方の風景のようなものを聴きたい。

(碧海委員)

・そうなると、「原子力のある町」でいいのだろうか。何か「原子力のある町」というと、言葉としてちょっとひっかかる。

(井上委員)

・おそらく、住んでいる人は原子力のある町なんていうのは言ってもらいたくない言葉で、それをどう思うかは自分たちの問題。誇りに思う人もいれば、いろいろな人がいると思う。他からそういう言葉で表現してもらいたくないと私なんかは思う。

・テーマだが、どうしても大テーマがいるとすれば、やはり「原子力と暮らし」が良いだろう。サブテーマを今ここに出てきた言葉の中で考えるならば、「今、原子力をどう考えるか—これからの原子力はどうなるのか」はどうか。今考える、自分たちで考える意見を言える、これからどうなるのか、その意見も言えるという、どこからでも話ができるかなという感じがする。

(小川委員)

・井上委員の今の提案は、ちょっと長いかなと思う。碧海委員の「原子力と暮らし—今までそしてこれから」はどうか。

(木元座長)

・過去、現在、未来ではなくて。

(小川委員)

・過去、現在、未来はちょっと漢字が多くなってしまうので。「原子力と暮らし—今までそしてこれから」はどうか。

(木元座長)

・吉川委員はどう思うか。

(吉川委員)

・特に意見はないが、もし、例えば「暮らす」とか「つき合う」というのがまずいというか、特定のニュアンスがあるということであれば、ちょっと姑息だが、「と」で並べる手はあると思う。「原子力と福島」とか「福島から原子力を見ると」というようなことを言われたと思うが、そういう手があるのかなというふうに思って聞いていた。

(木元座長)

・福島と言ってしまうと、福島には浜通り、中通り、会津とある。これは後で申し上げようと思ったが、「in福島」と今、仮にしているが、福島全体でやると全然意見が違ってくる。

(吉川委員)

- ・ もちろんそうだが、福島の有りようを、例えば立地地域というふうに一般的に区切ることはできないと思う。私も岡本委員も同じ心理学なので、多分興味を中心は同じだと思うが、今住んでいらっしゃる方はどう思っているのかということが大事である。
- ・ 地名はあってもいいと思うが、地域によって違うからといって、例えば「浜通り」とやってしまうと、地域内での対立みたいになってしまい、ちょっとまずいのかなと思う。そういう趣旨である。

(碧海委員)

- ・ 双葉はだめなのか。

(木元座長)

- ・ それに関しては後で申し上げたい。

(加藤委員)

- ・ これも単なる思いつきだが、例えば大テーマが必要なのであれば、「原子力について考えよう」ぐらいの、何とでもとれるようなものにして、あとは必要に応じて考える中身をつくるなり、あるいは資料を配ればそれでわかるので、何かそれぐらいでもいいのではないかと思う。

(中村委員)

- ・ あまり難しく考えないで、抽象的な大きなタイトルでいいと思う。例えば「エネルギー政策の中での原子力の存在」というのは妙に固過ぎるが、しかし、このことを聞かないと、昨日、今日、明日の話は出ないので、もし僕が行くとしたらそれを聞きに行く。ただ、それをタイトルにするかどうかというのは別の問題なので、タイトルは「原子力と暮らし」でも良いし、「原子力を考えよう」でも良いし、さっきの「原子力をどう考えるか」というあたりで良いかなと思う。

(木元座長)

- ・ それぞれおっしゃっているのは、実はそれほどばらばらではないと思う。
- ・ 「エネルギー供給の中での原子力の存在はどうなるか」というのは、これはやはり、都会にいても、その生産地にいても、とても気になることなので、どうしてもこれは出てくるだろうという気がする。
- ・ これまでのご議論を私なりにまとめさせていただくと、これならば広がるかなと思ったのは、小川委員は「今まで」という言葉をお使いになったが、「これまでとこれから」という言葉の方がなめらかかなという気がする。それで、過去、現在、未来も含んで、「これまでとこれから」ということにして、さらに、いろいろな方のご意見を見ると、「原子力と暮らし」でもいいのではないかと思う。その中でこういうことを含んでいけばいいじゃないかというご意見もあったので、「原子力と暮らしーこれまでとこれから」という形に仮にするというのはいかがか。

(中村委員)

- ・ 「原子力と暮らし」はいいと思うが、「これまでとこれから」というのは全部平仮名になってしまう。読みにくいのではないか。

(吉岡委員)

- ・ 大筋で賛成だが、さっき「原子力と福島」や「原子力と浜通り」など地名が出ていた

が、「暮らし」ではなくて、単に「地域」とするのはどうか。地名を挙げないで、「地域」や「地域社会」といった表現にすれば、あとは木元座長提案と同じという線もあり得るのではないか。平仮名が多いことについては、出版社は何でも平仮名にしたがって、勝手に原稿を直されていることが多いのだが、そういうのに慣れてきたので、平仮名でもいいかとは思ふ。

(碧海委員)

- ・ こだわるようだが、「暮らし」とした方が私はいいと思う。やはり女性の参加者を考えた場合には、原子力をどう考えるかじゃなくて、何かそういう言葉がちょっと入っていた方がいいなという気がする。自分たちの問題という気がすると思う。

(中村委員)

- ・ とても正論だと思うが、もしかすると、それは僕らの考え違いかもしれない。勘違いかもしれない。

(碧海委員)

- ・ そうは思わない。

(中村委員)

- ・ というのも、どうしても気になるのは、前会長の考えたいテーマである。

(碧海委員)

- ・ その前会長の案については、私もちょっと気になっている。私は、実は過去に市町村懇談会の女性部会というので、結構この双葉郡の女性たちとのかかわりがあって、井上委員もいろいろかかわりがおありになったからご存じだが、いろいろな人たちがいる。そういう意味で前会長は事情をよく知っていらっしゃる立場だと思う。だから、できるだけ一般化し、平たくした方が良く思う。

(新井委員)

- ・ 3番目の「信頼を回復するために何ができるか」という、この主語は何か。

(木元座長)

- ・ そこで、先ほどちょっと言わせていただいたのは、地元として何ができるかということもあるし、もちろん東電に何ができるのかということもある。

(新井委員)

- ・ いや、でもこれを話したときには、何か具体的なイメージはあったのではないかとと思う。この前会長のお話ではどうなのか。

(木元座長)

- ・ 林さんにして見れば、今までいろいろやったけれども、それに対しての不満が若干おありになるのではないかと気がしている。
- ・ もう一つ言えば、それで信頼回復なんてできるのかというのがあると思う。いろいろなことがこの中に含まれているので、確かにおっしゃるように、主語がどこで、相手がどれに対して言っているのかというのがわかりにくいのだが、私はそういうふうに解釈した。

(新井委員)

- ・ 何かもっとあるのではないか。

(木元座長)

- ・ 実はこれは電話取材で1時間ぐらいやったのだが、ちょっと今の件に関してはポイント

トになるかもしれないので、そのやり取りを読んでいただけるか。

(犬塚参事官補佐)

- ・電話で林前会長とお話した。林前会長のお考えは、「そもそも福島県の浜通りは貧しいところであった。非常に発展が遅れていた。海があるといっても漁業ではだめ、農地があるといっても農業ではだめということで、原子力発電所が来るまでは、農業が半分、残り半分は東京に出稼ぎに行って、地下鉄、下水道などの工事を行った。誘致によって、町は普通の暮らしができるようになった。出稼ぎをしなくてよくなったことによって、東京での生活費が浮き、朝晩家で過ごすことができるようになった。賃金も2、3倍になった。そういう生活で安定した。また、いろいろな施設もできた。そういう意味で、見違える町となって、原子力発電所ができるということで、生活も文化もさま変わりした。」
- ・ここから若干今の議論につながるどころだが、「原子力発電所は東電という会社が利益を得るためにつくったというよりは、町民も一緒になって土を掘り起こすところからつくってきた。自分たちも深くかかわってきたという思いが強いというところがあり、その上で、稼働してからは、事故とトラブルを区別しながら、これはトラブルですからというような、何ら危険はないですよというような説明があり、隠され、うその発表等により裏切られた。これによって、町民の心が原子力から遠のいて、昔よりは思い入れが減ってきている。今までは、うちの町の財産というふうに考えていたところが、少しずつよその人というように薄れてきた。よそ者だったんだという感じになってきた。そうすると、一緒に育てていこうという気持ちから少しずつ遠のいていって、信頼性が薄れる。そうなってくると、逆効果で、安全と言っても疑うようになってくる。家族であると思っていたのに、だんだん隠されてごまかされてきたというような感じをもってくる。そういうような状況で、どのように信頼を戻していくかというところで、信頼の話につながる。」ということであった。

(木元座長)

- ・とても複雑な思いがおありになるのは、私もすごく感じている。したがって、「信頼を回復するために何が出来るか」という一言については、今までの流れの中で、自分がかかわったこと、かかわりたいことがある。電力側のいろいろな不祥事があり、信頼を回復するための努力が、もどかしさと同時に、いや実は仲間だったんだよ、私もその仲間の意識を取り戻したい、というお気持ちが、林さんの中にもおありになると感じている。
- ・それを思いながら、原子力発電と一緒に私たちは生活しているということはどういうことなのか、それはひいては日本人の暮らしの中でどういう影響を与えるのか、林さんはそこまで考えていらっしゃる方だと思う。
- ・そこで、碧海委員が言われた、もしかしたら「暮らし」ということの方がごく素直に、自分の立脚点を足元に置いて、その足元から考えていこうということであれば、「暮らし」というのが一番いいのかなという気がする。
- ・話がどういうふうに展開するか大変興味があるし、私たちもしっかり聞かなければいけないし、その方たちの発言に対して、私たちは、自分はどういう考えでこの原子力委員会の市民参加懇談会に参加しているかということ、逆に林さんの方から聞かせてほしいということである。

(碧海委員)

- ・会の進め方、開催の仕方、進め方がすごくかかわってくると思うが、林さんのご意見では、コアメンバーも発言するようにと載っているの、ちょっと気になるのは、やはりそこへ参加して勉強したいというか、どっちかと言えば、聞きたいという感じがあるのではないか。

(木元座長)

- ・聞きたいというのはどういうことか。

(碧海委員)

- ・つまり、私たちの方が聞きたいのだが、逆の感じを受ける。

(木元座長)

- ・「次のように進めるのはどうか」の「まず」というところだが、コアメンバーから、エネルギーの中で原子力発電についてどういう考えを持っているのか、またはエネルギーについてどういう考えを持っているのか意見を話していただく、説明ではなく、それぞれの先生の特長というか、スタンスを出してごく短く意見を話していただく。「私は、原子力発電は要らないと思っています、それは何々かくかくしかじかです。」、「私は、原子力発電は必要だと思っています、それは何々かくかくしかじかです。」、それで、こういうスタンスで原子力委員会に臨んでいますという、コアメンバーが一律ではなく、それぞれどういう考えでこの役割を任じていらっしゃるかということ聞かせてほしいと、そういうふうにとっているのだが。

(碧海委員)

- ・それだと今までとは違う。

(木元座長)

- ・そこをご相談したいので、ちょっとペンディングにして最後に持ってきた。それをどうするか。タイトルも引きずられるということがあるかもしれない。
- ・ただし、「原子力と暮らし」というか、これから原子力とどう生きるかということになるのかもしれないが、それは私にも問われていることでもあるしれないという覚悟が重要なのかなと思う。
- ・あくまでもお相手の意見をしっかり聞くということが任務であり、役割だけれども、今回は自分たちも正直に腹を割って、私はこう思っている、ということ話すことも重要じゃないかなという気がしている。質問があったときにただ答えるということとは違う深さを求められているかもしれない。

(吉岡委員)

- ・先ほどの林さんのご意見を読み上げていただいて、とてもよくわかったのだが、まさに電力会社はよそ者でしかないというのは、ようやく認識されてきたなというふうにする。皮肉な言い方をすれば、それは営利企業なので、当然仲間になる場合もあるし、そうならない場合もある。そういうよそ者とどうつき合うかということになる。これからは恐らく家族としての関係を回復するというのは無理なような、残念ながらそういう気がする。
- ・進め方をどうするかということに引きつけて、話をつなげるならば、コアメンバーから、原子力発電についてどういう考えを持っているかということ聞いても仕方がないのではないかなという気がする。というのは、コアメンバーというのは、別に原子力

がこれからどうなるかについて深い学識を持っているわけでは必ずしもない。深い学識を持っている人は、いろいろな世界にいますので、そういう人をやはりパネリストに選んではどうか。主としてコアメンバーの中からそういうパネリストを選んでも良いが、コアメンバーと地元の人が対峙してやり合うというような、それは……。

(木元座長)

- ・ 対峙ではない。先ほど申し上げたように、やり合うとか何とかではなくて、例えば、東嶋さんはどういう考えで原子力を思っていますかということを知りたいことである。それは、どんなレベルでも、専門家じゃなくてよい。それで、ああ、それならば一緒だ、そのレベルで一緒に考えていきたいなと思ってくだされば大成功であって、何かわからない、一律の原子力委員である、専門委員であるという立場で物を言えということではなくて、あなた個人ということである。林さんのおっしゃるのは。

(吉岡委員)

- ・ いや、しかし、それは原子力と地域という問題を論ずるには、ある種洞察を持っている人をパネリストに呼んだ方がいいかなとは私は思っている。

(中村委員)

- ・ 木元さんがまとめる前に、ちょっと意見を言わせていただくと、基本的に僕も吉岡先生に賛成で、林さんのご意見は最大限尊重したいが、進め方で尊重できるのは、地元の各界からの代表の方に来ていただいて、我々コアメンバーと意見交換のキャッチボールをするというところは良いと私は思う。それは尊重したいと思うのだが、まず前提として、全然認識が違ふと私も思う。コアメンバーはそういうことを言いに行くわけではないということをもっとはっきりした方がよい。どう進めるかは、全く主催者である我々が適当であるという進め方でよいと思うので、もちろん、コアメンバーの中からパネリストを選んでも良いが、碧海委員が言われるように、どうもニュアンスにちょっとずれがあるので、ある程度はレクチャーをするわけじゃないけれども、一つの考え方というのを多分聞きたいということなんだろうから、それはコアメンバーの任ではないので、それは第1部でパネリストを立てるような形にするか、それとも、その後の5人の人とのキャッチボールをするか、それから会場の人とのやりとりというのを考えると、この間のように円卓にして、あの円卓の中に、コアメンバー以外にも1人か2人、ゲストとして呼び出すパネリストに入らせていただいて、その方たちにご意見を述べていただいて……。

(木元座長)

- ・ そのゲストというのは、中村さんのイメージとしては原子力の専門家ですか。

(中村委員)

- ・ 専門家ではなくてもよい。

(木元座長)

- ・ 例えば、ぱっとイメージする人は。

(中村委員)

- ・ 1人は、やはり学識経験者というか専門家の方が必要だ。1人は、ジャーナリスティックな立場の人に。

(木元座長)

- ・ というのは、最後にまとめさせていただかなければならないと思っていたのは、私の

イメージとしては、林さんの意見は尊重したい。そして、林さんとしては、どういう人が私たちの意見を聞いてくれるのということもあるだろうと思う。コアメンバーというのは、どういう人間なんだろうと。そうすると、例えば新井委員がいらして下さったら、ジャーナリストで、自分はエネルギー専門でやってきたと。原子力についてはこういう考えを持っている。その私が皆さんのご意見を聞かせていただくと。討議が必要であれば、私の申し上げたことに対して疑問があれば、私なりの立場でお答えできることはさせていただくということではかならないと思う。

- ・ その中で、話し合っていくうちに、地域の方々のご意見が出てきて、基本的には広く伺うということが大前提だから、皆さん方のご意見を承る方向に行くので、それは林さんとの話し合いの中で、最初、私たちのスタンスをお話するけれども、後は皆さん方地元から、パネリストの方5人選ぶというご意見なので、その方がお話ししてくださいという形にならざるを得ないだろうと思う。

(碧海委員)

- ・ やはり林さんのご意見は、あくまでも林さんのご意見である。私は、コアメンバーがそういうことを言うというのは反対である。なぜかと言えば、つまりそんな簡単に言えるものじゃない。それこそそうになったら、やはりいろいろ説明したいことが出てきてしまうし。だから、林さんが求めてらっしゃることが、私はどうもよくわからない。それだったら、今までの市民参加懇談会は、どういうふうにして行われてきたのかということの説明が当然あるわけであり、あとは、そのときにコアメンバーの中から司会をされる方が、まえがきで説明されることで、コアメンバーの立場というのは十分説明できるわけだから、私はこれは違うと思う。

(木元座長)

- ・ 事務局からちょっと話してもらおう。

(犬塚参事官補佐)

- ・ 先生方にご議論いただければ良いと思うが、林さんと話した感じでは、パネリストの方々から意見を伺えばいいのかもしれないが、市民の方々から意見をもらうに当たって、こういう視点、まさに今までの第1部、第2部の第1部にそれが相当するのかもしれないが、こういう意見があるんだ、こういう切り口があるんだ、こういうとらえ方があるんだ、私はそれと同調できない、また違う意見を持っている、違う切り口を私は持っているというような形で、導入というか、それを引き出すというか、話しやすくするためにも、説明会のような形ではなくて、それぞれの生活の中で持ってこられたお考えの切り口で、多少ご意見を言っていただくと、その次の各層の方々からご意見を引き出しやすくなるのではないかという視点だった。

(新井委員)

- ・ 林さんの要求していることはよくわかる。私が講演を頼まれるときは、相当丁寧に自己紹介をやる。でないと、どういう人が話しているのか、どういう人なのかが見えない。その人は原子力に賛成なんだか、反対なんだかという、これもわからない。だから、私は林さんがこう言ってきたのはよくわかる。立場が明瞭にならない人に何を話しても、何とも言えない感じがある。ここ4、5年、10分ぐらいかけて自分の考え方の略歴みたいなのを話して、その上で講演をするのをよくやっていて、こうなると非常に説得力を持つし、何か意見を聞くけれども、反対意見や何かを言う人も比較的

波長が合うというか、土俵がわかっているんだというご理解があるので、僕は比較的この考え方には賛成である。

(木元座長)

- ・ ありがとうございます。

(碧海委員)

- ・ そうしたら、コアメンバーの中からパネリストを出した方がいいのではないかと。

(木元座長)

- ・ パネリストということでは、地元からは5人なり6人なりおそろいになるから、それに合わせてこちらのパネリストを、ということではなく、行ける人は行こうという感じでいいと思う。だから、パネリストという感じでは、今まで立てていないので、第1部でとりあえずお願いしたという形はあるにしても、あくまでも伺うという立場で、先日の長計のときのような形で臨めばいいのではないかと思う。それで、そのときに各コアメンバーの委員を紹介の形で、私はこうです、何とかはこうです、こうですと、今新井委員が言われたようなことをおっしゃってくだされば、それで話は展開していく可能性はあるだろうと思っている。

(吉岡委員)

- ・ やはりコアメンバーが素人であるということがとても気になる。それは、前回の長計の懇談会のように、意見を引き出し、発展をさせるというのが、向かい合う側の私たちの役割であると承知しているが、そういう立場をいかにして担い得るか、担い得る者はだれかと考えると、今のテーマでは少々つらい。原子力と地域社会の関係であるとか、原子力発電のビジネスとしての将来性とか、そういうものについてちゃんと勉強をして、専門的な意見をお持ちの方が、その相手の意見を引き出すのに適切だと思う。コアメンバーは、必ずしもその任にあらずというふうには思っている。

(木元座長)

- ・ ちょっと違ってくるので、事務局から。

(犬塚参事官補佐)

- ・ あともう一つ林さんがおっしゃられているのは、今まで地域でやられている説明会なり、そういう会に対しての不満というのはどういうところがありますかと伺ったところ、「今までは一方的な承り学習であったと。チンプンカンプンであったと。知りたいことがそれと気づくまでに距離があった。」ということをお話しており、まさに座長がおっしゃられているように、ひざを突き合わせるような形で議論というか、意見を伺う方がその趣旨に沿っているのかなという感触はあった。

(木元座長)

- ・ 委員長。

(近藤原子力委員長)

- ・ 地元からの市民が5人というのは少ないと思う。この間は9人だったと思うが、あのぐらいの、できればイーブンぐらいの数がいいのかもしれない。それで、まさにセンターテーブルでしばし懇談をいただく。コアメンバーが聞き役だということは明確にし、しかし、新井委員が言われたようにだれが聞いているかはわかった方がいいので、最初、自己紹介を適切にやっていただくのか、中村さんがうまく紹介するのか、そこはどっちでもいいと私は思うが、この間のご意見を聴く会が非常によかったので、

ぜひあのような会合を福島でやれたらいいなという思いでの提案である。

- ・それからもう一つ。先日の市民参加懇談会を踏まえてだが、例えば議論があるレベルのところに行ったときに、中村委員が、ここはやはり専門家にちょっとコメントしてもらった方がいいなと思ったら、座長の特権で、控えている専門家に振るというのはどうだろうか。

(木元座長)

- ・それはテーブルに座っていなくても良いか。

(近藤原子力委員長)

- ・テーブルにいない方がいいと思う。
- ・司会から3分でこのことについて話すように振るという形で、なるべく10人ぐらいの方がいいと思う。市民の方のおっしゃる思いを、いろいろな角度から引き出す役目がコアメンバーという形で進めていただく方法があるのかなと思う。

(木元座長)

- ・おっしゃっていただいて大変助かった。私のイメージも、最終的にはそこに行く。その場合に、今まだ中村委員に司会をお願いしていないけれども、その辺りはまたご議論あるところかもしれないが、今のようなイメージというのはどうだろうか。

(碧海委員)

- ・私も、この間の方式がいいのではないかなと思うが、ただ、林さんのご意見を見ると、各層の市民という割り方が、例えば青年、婦人、商工会、農業などとなっている。これはまさに地域の割合と組織の考え方と、例えば女性をとっても、これは年代的には相当違いがある。だから、婦人会なら婦人会の代表という形だけではなく、もうちょっと若い女性もいれば、年配の方もいるという出し方にしないと、ちょっとつまらないなという気がする。

(木元座長)

- ・この2枚目の林さんの意見の中の3. のパネリスト候補というのがある。そこに書いてあるのが、こういうところに双葉郡単位で集まっているので、相談をするという事なので、ここには相談しようと思っている。それで、今委員長がおっしゃってくださったように、10人ぐらいでいいじゃないかと、前回のように進めるとこういう感じになるので、それでいいのではないかなと思う。
- ・コアメンバーは何人行けるかわからないが、何人か行って、親しくお話しするが、基本的には何度も言うけれども、皆さん方のご意見を聞くというのが任務なので、それは守っていこうと思う。
- ・それからもう一つ言われた専門家については、そういう意味で今までの会でも、関連する当事者に説明者ということで、敦賀のときは会場側にいていただいたし、東電問題を取り上げたときは、壇上の横にいていただいて、そして必要に応じて話していただいた、ご説明いただいたということがある。
- ・そういう意味で、専門家の方にやはり来ていただく、あるいは当事者の方に来ていただくということはいかがが。
- ・そうすると、信頼回復の話になった場合には、当事者は東電になる。私は、東電は聞くべきだと思っている、当事者として。当然来るでしょうが。

(吉岡委員)

- ・ 東電はいなくていいのではないか。来ていただいてもいいけれども、長々と話し始めると、これは困ることになるので、第三者の学識経験者を若干名呼びして、その人には専門的な見識について答えていただく方が良い。

(木元座長)

- ・ 東電自体の問題の質問が出る可能性はないか。

(吉岡委員)

- ・ でも、それは本題とはかなり外れるのではないか。

(木元座長)

- ・ ただ、信頼回復という言葉が出てきたのは東電の問題である。

(中村委員)

- ・ そこをケアしようとする、やはり敦賀のときみたいに、結局、説明者が一生懸命説明してしまう。それが、やはり全体の形を崩してしまった。それは地元の皆さんと東電、当事者同士でこれから何をやっていくかという話だから、それをこの場で東電に答えさせる必要はないと思う。

(木元座長)

- ・ 仮に何かあったときは、私は東電に来ていただくことは必要だと思っているので、お誘いできればと思っている。どうしてもこの人でなければわからないというときは振るかもしれないが、それ以外は全く必要ないと、そういう解釈でいいか。

(中村委員)

- ・ そう思う。敦賀のときの反省で言うと、こういうふうにお答えする方が、役所も当事者も原子力委員も控えていますと言ってしまうと、やりとりになってしまう。説明する方は説明したいし、文句言う方も、じゃあその当事者にと話になってしまうので、我々の形というのがだんだんぼやけてくる。
- ・ したがって、これは委員長が言われるような形がいいと思っている。そうなったときは座長権限で、もちろん進行役が相談するけれども、座長権限で、今日はだれがいるから3分で答えさせましょうと、座長権限でやる形はいいと思う。ただ、控えているから必要があったら話を聞けるということは言わない方がいいと思う。

(木元座長)

- ・ ご紹介もしないし、ただお願いして座ってはいいただいているという形式か。

(中村委員)

- ・ この間の第7回市民懇のときのように、どうしてもこれはこの場で正しておいた方がいいという事実誤認とか、間違った認識とかというものについては、確かに可能な限りコンパクトにそこで訂正する必要がある。そのための要員としているのだが、それは座長と進行係の頭の中にあるだけでというやり方でいいように思う。
- ・ もう一つ言ってしまうと、基本的に地元の方のご意向を生かして、この双葉郡の方たちにご発言いただく方をお呼びするのは良いが、もう1チャンネル持っていたらどうか。こういう形で登壇者というか、ご発言いただく方をお願いするにしても、もう一方で、例えば新聞社からも1人お呼びしたい、テレビ局からも一応入れるつもりだとか、それから、例えば役所をリタイアされた方とか、今関連組織にいる方だけ地元の方でこういう方がいるので皆さんからのご推薦とは別に我々はこういう方からも地元の声として聞きたい、ということを確認しておいて、何人かリストアップしてお

いた方がいいように思う。

(木元座長)

- ・私もおっしゃることに賛成で、実はメディアの方に、新聞関係の方、今日もいらしているかもしれないけれども、地元の2社がありますから、お声をかけようかという気はしている。ただ、テレビ局はちょっと難しいかもしれないと思っている。
- ・合計10名ぐらいというのはいいか、そのメディアの方を含めて。

(中村委員)

- ・10名ぐらいい方がいいのではないか。

(木元座長)

- ・では。10名ぐらいとさせていただきます。
- ・10名からお話をうかがった後で、別紙の終わりの方に、第1部、第2部とはあえて書いてないが、キャッチボールをしながら盛り上がった話題でフロアの人に意見を聞くというのは、これはこちら側の采配の範疇なので、盛り上がる、盛り上がらないにかかわらず、ある段階でフロアのご意見を聞くという形でいいか。第2部とはあえて言わないけれども。
- ・それから、タイトルは「原子力と暮らし」でよろしいか。

(中村委員)

- ・ますます「暮らし」は、ちょっと違うかなと感じている。

(岡本委員)

- ・私はさっき出ていた「原子力と地域社会」という方がいいと思う。

(中村委員)

- ・「暮らし」よりは、僕も「地域社会」の方がいいと思う。

(碧海委員)

- ・男性はやはり固い。

(新井委員)

- ・女性対象であれば「暮らし」だろう。

(小川委員)

- ・実際に来る方の女性の割合というのはどのぐらいなのか。
- ・パネリストのことに戻ってしまうが、よろしいか。この地域の団体の方からの代表となると、意見が同じようになってしまうのではないかという心配がある。

(木元座長)

- ・そこはバランスをとりたいと思っている。代表ではなく、ご推薦いただくわけだから。

(碧海委員)

- ・全く同じ意味で、福島はやはり反対の活動を相当やっていらっしゃる方もおられる。インターネットのホームページなんかで拝見すると、そういう方たちもたくさんいらっしゃる。つまり、そういう方たちを前回方式でやると、前は皆さんからご意見をいただいた上で選んでいる。だから、ある程度そういう意味でのバランスをとっていたが、今度の場合はどうするのか。

(木元座長)

- ・まだ事務局でも固まっていないが、この地域にこういう方がいるというのはある程度存じ上げている。だから、もしご異論がなければ、今碧海さんが言われたように、多

様なお意見をお持ちの方々にお声をかけることは可能である。そういうふうはこちら側のルートで、メディアを含めて残りの5人を選ぶか。

(小川委員)

- ・ 婦人会の協力をいただく一方、立場の異なる方に納得して出ていただくということがとても大切かなと思う。

(木元座長)

- ・ 誤解を招くようだが、協力を1団体に限るつもりはない。もし、団体名を出してくれと言われたら、協力いただける団体の名前は挙げる。
- ・ それは幾つでもつなげられるような気がする。それで、8カ町村に声をかけるわけだから、その団体の名前が全部出るかもしれない。また、それも後でご相談しなければいけないが。
- ・ タイトルは、「暮らし」で良いか。

(小川委員)

- ・ 私は「暮らし」に1票入れる。

(木元座長)

- ・ ご異論がなければそうさせていただく。どうしてもということがあればおっしゃっていただければと思うが、今日の段階では仮というか、100%に近いんだけど、「暮らし」にさせていただく。
- ・ それから、今、仮称としてタイトルが「市民参加懇談会 in 福島」となっているが、先ほど申し上げたように、福島になると、3つに分かれていてそれぞれ違う。福島じゃない方がいいということで、8カ町村にも声をかけるとなると、双葉郡となるので、「in 双葉」でいいか。どうだろう。

(中村委員)

- ・ 双葉だと双葉町だけ考えてしまうかもしれない。

(木元座長)

- ・ では「郡」を入れなければならないということか。

(中村委員)

- ・ 浜通りにして、中通り、会津でもやるよというニュアンスにしてもいいが。

(町原子力委員)

- ・ この議論を聞いていると、これはやはり地元の人が参加するのが一番大事であり、そういう人たちが一体どういう議論を期待しているのかが大事かと思う。パネリストを選ぶのか、あるいはコアメンバーの人がやるのかなど、婦人会の前会長さんにもう少し聞くか、あるいは二、三人の方に、地元が本当に何を期待しているというのか、どうしてほしいと思っているかというのを聞いた方が、話がまとまりやすいのではないかという気がする。手続があるのかもしれないが。

(木元座長)

- ・ 非常に林前会長が気にしてらっしゃるのは知事のことである。だから、その関係をこれからちょっと工夫しなければいけないなと思っている。状況によってだが、何らかの方法で、かくかくしかじかでやらせていただきますというご報告をしなければならないかもしれない。
- ・ 地元は、プルサーマルに関して言えば、反対派もいるけれどもやりたいというのが大

方の意見かと聞いている。そうすると、知事が反対しているところで、自分たちはどう
いう意見を出すかということで迷いがあるだろうと思う。その議論が中心になる可
能性もある。

(町原子力委員)

・ 知事に聞いてもらうのがいい。

(木元座長)

・ 来ていただければ。

(町原子力委員)

・ 市民の生の声を聞いてもらうということ。

(木元座長)

・ お声をかけるとしても、そういう懸案がいろいろある。そうすると、戻るけれども、
「i n 福島」ではなくて何にしたらいいですか。「i n 浜通り」？

(中村委員)

・ いや、「i n」はなくていいのではないか。ただの市民参加懇談会で。

(小川委員)

・ それだと、今までの流れと違ってくる。

(木元座長)

・ 「i n 福島浜通り」。

(小川委員)

・ 「i n 福島」でもいいと思うが。

(木元座長)

・ 1つのエクスキューズがあるのは、発電所の名前が全部福島第一、福島第二なので、
それで言うと全部網羅してしまうということもあるかもしれない。

(近藤原子力委員長)

・ でも、会津でやっても「i n 福島」とするというポリシーを持てばそれでいいのでは
ないか。

(木元座長)

・ きちっと説明できればいい。では、「i n 福島」にします。よろしいか。

(岡本委員)

・ そうなると、題であるが、私は先ほど吉川先生がおっしゃっていた「福島から見た原
子力発電」というのがやりやすいかなと思う。

(中村委員)

・ いや、やりにくい、その方が。

(岡本委員)

・ やりにくいかな。

(中村委員)

・ はい、やりにくい。せっかく広げようとしているのが、ちょっと議論のポイントがセ
グメントされ過ぎてしまう。

(木元座長)

・ たまたまこの市民懇を福島でやったという感じを抑えておきたい。

(井上委員)

- ・平仮名で使ったらどうか、「ふくしま」と。
(中村委員)
- ・いや、漢字でいこう。
(小川委員)
- ・これまでとこれからが平仮名なのでバランスがとれないのではないかという気がする。
(中村委員)
- ・いや、福島県だから福島でいい。あまり気にしない方がいい。
(木元座長)
- ・一応、今の段階では、「in福島」で漢字でいってみるということにしたい。
(中村委員)
- ・中通りでやるときは、福島Ⅱにすればいい。
(木元座長)
- ・それと、パネリストもそういう形で決めて、こちら側はパネリストと言わないで、コ
アメンバーのご出席者は当然その円卓を囲む。原子力委員会の委員長も行ってくださ
ることになるかもしれない、町委員も。そのときには、申しわけないけれども、円卓
ではなくて、傍聴席に座っていただいて、司会の命で、近藤委員長答えてくださいと
いうことになるかもしれないので、よろしくお願ひしたい。
- ・それで、会の進め方は第1部と第2部に分けるか。通していくという方法もある。
(中村委員)
- ・分けるかどうかと、もう一つあるのは、地方の場合、4時から4時半というのは、特
に女性を考えたとき限界である。夜の食事の支度で、大体主婦の方は4時には動き始
めてしまう。だから、できれば4時半ぐらいの終了を。
(木元座長)
- ・だとすると、通してやった方がいいかもしれない。
(中村委員)
- ・1部、2部ではなくて、整理的な休憩という形にして、一息入れたところで、この後
は会場の皆さんからも挙手で伺いましょうかというふうに持っていく手はあると思う。
(木元座長)
- ・それは、出入り自由に、トイレに行きたい人もいるだろうから、それは休憩とりませ
んけれども、自由にしてくださいということはおっしゃっていただければいいのかし
もしれない。
(中村委員)
- ・でも、一応とった方がいいのではないか。だから、1部、2部とは言わないけれども、
開始から1時間半ぐらいたったので、ちょっとトイレ休憩とりましょうかという感じ
で持っていったいいのではないか。
(木元座長)
- ・まだ中村委員が司会だと決まっているわけではないけれども、何か決まったようなお
願ひをしている部分があるが。そこで、5月22日、皆さん、ご出席可能かどうか。
会場までのアクセスは、常磐線を使う。ご都合をペーパーに○×をつけていただく
ということにしたい。
- ・司会でこういう方が今度はやっていただければというようなご意見があれば、おっし

やっていたらとありがたい。

(碧海委員)

- ・この間と同じスタイルだったら、中村委員を推薦したい。

(木元座長)

- ・中村委員、という声が圧倒的ですが、お願いしてよろしいか。

(中村委員)

- ・ただ、今回は事前にご意見を伺ってないので、どういう発言をされるかわからないのと、それとこの間の場合は東京に来て皆さんにやっていただいたので、理性的な姿勢のまま最後までいるということが可能だったが、過去の例のように、地元でやるというのが、やはり相当地元のしがらみというのが背景にあるので、よきせぬこともあり得るし、ご発言があっち行ったり、こっち行ったりということも十分に考えられるので、コアメンバーの皆さんも協力しないと、なかなか進め方は難しいかなとは思う。

(碧海委員)

- ・前回と同じように、聞き手では幾らでもご協力します。

(中村委員)

- ・引き出し役で。

(吉岡委員)

- ・事前に招聘人にメモでも出していただいたらいいのではないか。

(木元座長)

- ・そうですね。どういうご見解ですかと。

(中村委員)

- ・おっしゃりたいことというのをメモで。

(木元座長)

- ・メモで出していただくことにしたい。こちらからお願いする方にしても、そういうことにしたい。
- ・司会は中村さんをお願いさせていただいて、私は隣でおとなしく座っているので、よろしくお願いします。

(中村委員)

- ・いやいや、座長権限をフルに使っていただいて。

(木元座長)

- ・いざというときには、委員長がいらしているからお声をかけるということで決めさせていただく。
- ・前後を行ったり来たりしたが、5月22日よろしくお願ひしたい。実は、前回も長計を聴く会の際に、コアメンバーの中に2、3人担当がいた方がいいということで、集中的に決めさせていただいた。何かあったときにその方にご相談して、ご意見を伺って、進行していくということにしたので、担当の方をどなたか決めていただきたいと思う。中村委員は当然なっていたかなければならない、私も入る。

(中村委員)

- ・吉岡委員はどうか。

(木元座長)

- ・吉岡委員、よろしいか。

(吉岡委員)

- ・ はい。

(木元座長)

- ・ この間と同じようなメンバーになってくるか。吉岡委員、中村委員、木元が入って、あと2人ぐらい。

(中村委員)

- ・ 井上チイ子委員。

(木元座長)

- ・ あと、もし新井委員、よろしければ。新井委員は当日いらっしゃるか。

(新井委員)

- ・ そのつもりである。

(木元座長)

- ・ そうすると、今、私を除けば4人。順不同で吉岡委員、中村委員、井上委員、新井委員。こんなところでよろしいか。—こんなところでなんて失礼だけれども。

(中村委員)

- ・ また、前回も出たように若い人の意見が必要なので、東嶋委員はいかがか。

(木元座長)

- ・ 東嶋委員、いらっしゃるか。

(東嶋委員)

- ・ まだわからないが、行くようにしたいと思っている。

(木元座長)

- ・ では東嶋委員も加えてさせていただいて、この5人をお願いしたいと思う。
- ・ 今、メールがウイルスにやられている方が非常に多くて、どういうご連絡をしたらよいかわからないが、ファクスなりお電話なりになるかもしれないが、そのときにはよろしくお願いしたいと思う。

(犬塚参事官補佐)

- ・ 今回のコアメンバー会議の議事録を作成し、出席委員の確認の後、原子力委員会ホームページに掲載、公表ということにさせていただくので、よろしくお願いしたい。

(木元座長)

- ・ それから、次回のコアメンバー会議は、5月の終わり、この辺に招集するかもしれないが、それは皆さんのスケジュールを伺わせていただいた上で決めさせていただく形でよろしいか。
- ・ ということで、事務局の方も私を含めて頑張るので、またよろしくお願いしたい。

(3) その他

特になし

○本日の議論等より、事務局が次回の市民参加懇談会について必要に応じ、各委員にご意見を伺うこととなった。

以上